

維持管理要領書

フジヨシ浄化槽 FCD-I型

御施主様へ

- この度はフジヨシ浄化槽をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。
- この「維持管理要領書」は、維持管理契約を結ばれました専門業者の方にお渡しください。

維持管理業者様へ（維持管理される方へ）

- この「維持管理要領書」をよくお読みいただき、正しい維持管理を行ってください。

目次

安全上のご注意	1
1. 維持管理および法定検査について	3
2. 構造と機能	5
3. 保守点検について	6
4. 清掃について	22
5. アフターサービスについて	24

<記録表ほか>

使用開始直前保守点検チェックリスト

保守点検記録表

清掃記録表



注意


維持管理要領書の本文に出てくる警告表示の部分は、浄化槽の維持管理を行う前に注意深くお読みになり、よく理解してください。

※いつでも使用できるように大切に保管してください

安全上のご注意

- 作業を始める前にこの「安全上のご注意」をよくお読みになり適切に維持管理を行って下さい。また、お読みになった後は大切に保管しておいて下さい。

● 表示の説明

 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
---	---

警告

次の警告事項を守らないと事故が生じた場合は、維持管理をした人の責任を問われるおそれがあります。

警告 … 1) 消毒剤による発火、爆発、有害ガス事故防止

① 消毒剤は強力な酸化剤です。

消毒剤には、有機系の塩素剤と無機系の塩素剤の2種類があります。

これらを一緒に薬剤受け（薬筒）入れないでください。

留意：有機（イソシアヌル酸）系の塩素剤には、品名：ハイライト、ポンシロール、メルサン、マスター、ペースリッチ、などがあります。

無機系の塩素剤には、商品名：ハイクロン、トヨクロン、南海クリヤーなどがあります。

② 消毒剤の取扱に際しては、目・鼻・皮膚を保護するため、ゴム手袋、防塵マスク、保護メガネなどの保護具を必ず着用してください。

③ 消毒剤を廃棄する場合は、販売店などにお問い合わせください。

発熱・火災の危険がありますので、消毒剤はごみ箱やごみ捨て場に絶対に捨てないでください。

留意：消毒剤の取扱上の詳細な注意事項は、現品の包装材に記載されていますので、お読みください。

これらの注意を怠ると発火・爆発・有害ガスの生じるおそれがあり、またこれらにより傷害を生ずるおそれがあります。

警告 … 2) 作業中の酸欠などの事故防止

槽内に入る場合は、必ず酸素濃度・硫化水素濃度を測定し、その安全を確かめてください。

また、槽内で作業をするときは必ず強制換気を行って下さい。

このような注意を怠ると、人身事故（死亡事故）の発生するおそれがあります。

警告 … 3) 感電・発火、巻き込まれ事故防止

① ブロワ・制御盤の近く（50cm以内）には、ものを置かないでください。

② 電源コードの上には、ものを置かないでください。

この注意を怠ると、感電・発火の生ずるおそれがあります。

③ ブロワの点検後、はずしたカバーは必ず取り付けてください。

カバーを取り付けないと、巻き込まれ事故のおそれがあります。

警告 … 4) マンホール・点検口などからの転落・傷害事故防止

① 作業終了後、マンホール・点検口の蓋は、必ず閉めてください。また、ロック機構のあるものは、必ずロックしてください。

② マンホール・点検口などの蓋のひび割れ・破損など異常を発見したら、直ちに取替えてください。

これらの注意を怠ると、転落・傷害の生ずるおそれがあります。

- ・ 点検の際、浄化槽の機能を保つために以下の点に留意して作業を行って下さい。

留意事項

- 留意** ① コンセント火災事故防止のため、つぎのことをおこなってください。
電源プラグは、ほこりが付着していないか確認し、**がたつき**のないように刃の根本まで確実に差し込んでください。
ほこりが付着したり、**接続が不完全な場合には、感電や火災の生ずるおそれがあります。**
- 留意** ② 作業終了後、次の事項をおこなってください。
 - 1) マンホール・点検口の蓋は必ず閉めてください。
 - 2) 電源は入れてください。
 - 3) ブロワ・制御盤の近く（50cm 以内）にもものは置かないでください
- 留意** ③ マンホール・点検口の枠及び蓋が鋳物または鋼製の場合には、定期的に錆を除去して塗装してください。
- 留意** ④ 保守点検の技術上の基準・清掃の技術上の基準など諸法令及びメーカーの維持管理要領書を実守って維持管理をしてください。
- 留意** ⑤ 浄化槽に入れる消毒剤は、浄化槽を使用開始するまでは開封しないでください。
これを守らないと消毒剤から塩素ガスが発生し空気中の水分と反応、塩酸を生じ、このために**金属類を腐食する恐れがあります。**

1. 維持管理及び法定検査について

浄化槽法及び浄化槽法に基づく政省令では、次のことが定められています。

1-1. 管理者の義務

- ア) 使用開始の報告 イ) 使用開始前の保守点検 ウ) 使用開始後は、環境省令で定める回数の保守点検、清掃のほか、使用に関する準則の遵守 エ) 使用開始後3ヶ月経過した日から5ヶ月の間に行う法定検査 オ) 毎年1回の法定検査 カ) 保守点検、清掃の記録の保存(3年間)。

なお、保守点検や清掃を管理者自らが行うことが出来ない場合は、浄化槽法に定められている保守点検業者(または、浄化槽管理士)や浄化槽清掃業者に委託することができますようになっています。

1-2. 保守点検業者の義務

- ア) 保守点検を委託できる者は、法の定めるところにより、浄化槽管理士あるいは都道府県知事の登録を受けた保守点検業者でなければなりません。
イ) 浄化槽の保守点検は、浄化槽の保守点検の技術上の基準に従って行わなければなりません。

1-3. 保守点検の時期及び回数

最初の保守点検は浄化槽使用開始の直前に行い、それ以降は、2週間に1回以上行って下さい。

備考

- 地域(都道府県浄化槽協会)により処理機能の安定化のため上表の回数以上の保守点検回数を定めている場合があります。
- 駆動装置又はポンプ設備の作動状況の点検及び消毒剤の補給は、上記にかかわらず必要に応じて行うものとします。

1-4. 清掃業者の義務

- ア) 清掃を受託できる者は、法の定めるところにより、当該業を行おうとする区域を管轄する市町村の許可を受けた清掃業者でなければなりません。
イ) 浄化槽の清掃は、浄化槽の清掃の技術上の基準に従って行わなければなりません。

1-5. 清掃の回数

汚泥濃縮貯留槽は濃縮汚泥14日間貯留分を設計値としています。負荷・運転状況や搬出計画に合わせて全量引き抜いてください。

※ 規模によっては一度に多量の汚泥の引き出しを伴うため、本製品の設置にあたっては、特に汚泥の搬出先等との調整を行って下さい。

1-6. 保守点検及び清掃の記録の保存

浄化槽管理者は、保守点検、清掃の記録を作成し、3年間保存しなければなりません。ただし、この業務を委託した場合は、委託を受けた者が記録を二部作成し、一部を浄化槽管理者に交付し、一部を自ら保存しなければならないことになっています。

1-7. 法定検査

浄化槽法第7条に基づく浄化槽使用開始後3ヶ月を経過した日から5ヶ月間に都道府県知事の指定する検査機関(指定検査機関)の水質などの検査を受けなければならない。

浄化槽法第11条に基づいて毎年1回、指定検査機関の水質などの検査を受けなければならない。

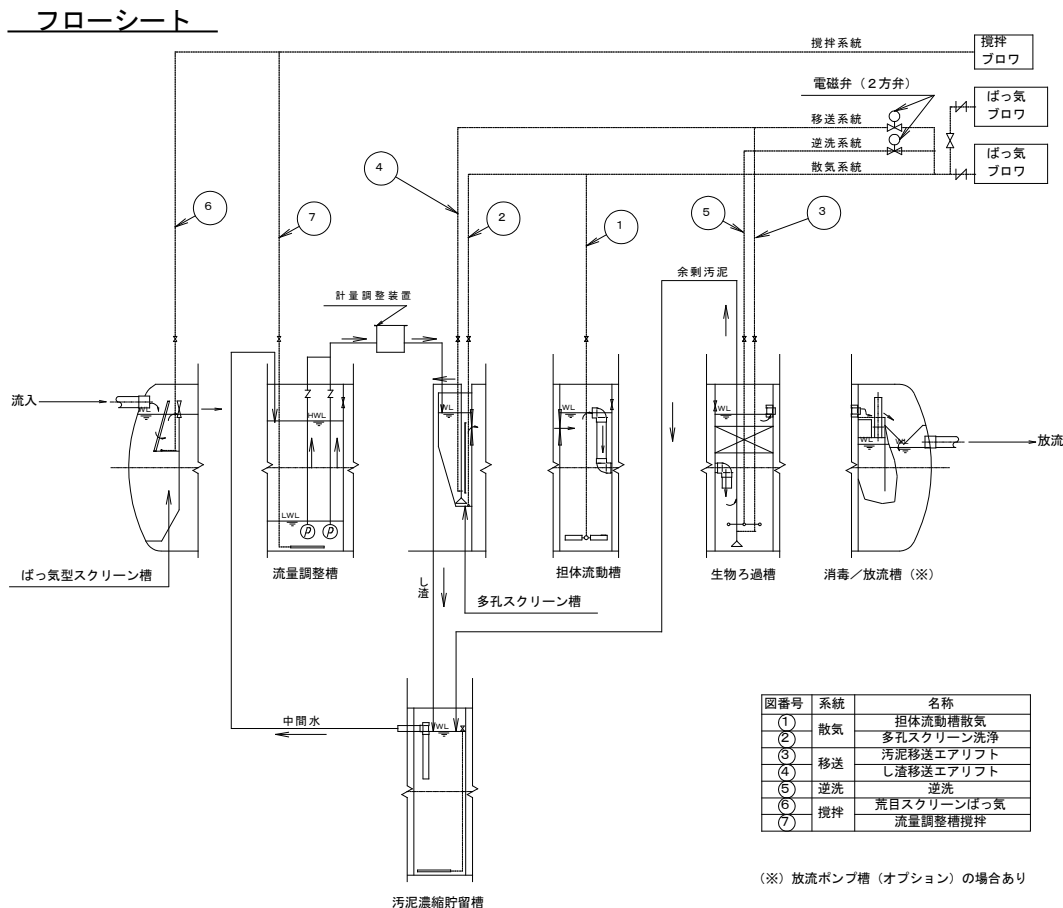
項	目	頻 度
法定検査	7条検査	使用開始後3ヶ月を経過した日から5ヶ月間に実施
	11条検査	毎年1回実施

2. 構造と機能

処理方式：流量調整担体流動生物ろ過方式

処理性能：放流水 BOD20 mg/L 以下、COD30mg/L 以下、SS20 mg/L 以下（大臣認定値）

処理汚水量：2.55～100 (m³/日)



・ ばっ気型スクリーン槽

目幅 50mm の荒目スクリーンで夾雑物を除去し槽底部に貯留します。スクリーンは常時ばっ気しており目詰まりし難い構造になっています。

・ 流量調整槽

一時的に流入水を貯留し、ポンプと計量調整装置にて定量移送します。流量調整比は 1.8 以下です。

・ 多孔スクリーン槽

φ2mm、開口率 40%以上の多孔スクリーンでし渣等を除去しエアリフトで汚泥濃縮貯留槽へ移送する。槽上部に副水路としてφ5mm 目の多孔スクリーンを設置してあります。

・ 担体流動槽

槽内に生物膜の付着した担体を充填し、BOD を除去します。BOD 容積負荷 0.6 [kg-BOD/m³・d] 以下です。

・ 生物ろ過槽

水を底部から移流させる上向流ろ過方式を採用しています。槽上部にろ材を充填しており、ここでろ過します。余剰汚泥を底部より定期的に汚泥濃縮貯留槽へ移送させます。

・ 汚泥濃縮貯留槽

余剰汚泥を濃縮・貯留します。貯留量は濃縮汚泥 14 日分になります。

3. 保守点検について

3-1 主な点検項目

点検に必要な器具及び機材を表1に、主な点検項目を表2に示します。

表1 点検に必要な器具・機材

必要な器具・機材	用途
ひしゃく	<ul style="list-style-type: none">・ スカムの除去・ 汚泥性状の確認・ 担体の確認
ブラシ (柄の長いもの)	<ul style="list-style-type: none">・ スカムの除去・ 槽内、移流口、オーバーフロー口、移送装置などの清掃・ ばっ気スクリーン、多孔スクリーンの清掃
たもあみ	<ul style="list-style-type: none">・ 流出した担体の回収
計量シリンダーおよび 目盛り付バケツ	<ul style="list-style-type: none">・ 移送水量の測定・ 逆洗水量の測定
汚泥厚測定用具 または透明管※	<ul style="list-style-type: none">・ 汚泥堆積厚およびスカム厚の測定 (清掃時期の判断) ※透明管の径は3cm以上が良い
スカム破碎用具	<ul style="list-style-type: none">・ スカムの破碎
透視度計	<ul style="list-style-type: none">・ 透視度の測定
水温計	<ul style="list-style-type: none">・ 水温の測定
D O計	<ul style="list-style-type: none">・ D Oの測定
p H計	<ul style="list-style-type: none">・ p Hの測定
残留塩素計	<ul style="list-style-type: none">・ 残留塩素の測定
時計	<ul style="list-style-type: none">・ 水量の測定・ 現在時刻の確認
工具	<ul style="list-style-type: none">・ ブロワ・ポンプの修理
記録	<ul style="list-style-type: none">・ 保守点検記録表

表2 主な点検項目

チェック項目	細目
流入管渠	<ul style="list-style-type: none"> ・ 点検升の蓋の密閉状況。 ・ 滞水や漏水、異物等が堆積又は付着していないか。
放流管渠	<ul style="list-style-type: none"> ・ 滞水や漏水、異物等が堆積又は付着していないか。
ばっ気型スクリーン槽	<ul style="list-style-type: none"> ・ スクリーンは閉塞していないか。 ・ スクリーンの破損・腐蝕はないか。 ・ 著しい発泡は見られるか。 ・ スクリーンは均一にばっ気されているか。 ・ スクリーンかすの堆積状況の確認。
流量調整槽	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異常な水位上昇は見られるか。 ・ 著しい発泡は見られるか。 ・ ばっ気攪拌状況は均一か。 ・ 汚泥の堆積状況の確認。 ・ フロートの設置状況は適正か。 ・ 計量調整装置は閉塞していないか。 ・ 移送水量は適正か。
多孔スクリーン槽	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異常な水位の上昇は見られるか。 ・ 移流管内に異物等の堆積がないか。 ・ 著しい発泡は見られるか。 ・ スクリーンは閉塞していないか。 ・ スクリーンが破損していないか。 ・ 槽内は適正にばっ気されているか。 ・ し渣移送量は適正か。 ・ 担体・ろ材が混入していないか。
担体流動槽	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異常な水位の上昇は見られるか。 ・ 空気配管の異常はないか。 ・ ばっ気は均一か。 ・ 著しい発泡は見られるか。 ・ 担体の著しい磨耗や流出は見られないか。 ・ 移流管ネットが閉塞していないか。 ・ DOの測定。(1.0[mg/L]以上あるか) ・ 水温の測定。
生物ろ過槽	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異常な水位の上昇は見られるか。 ・ スカムの発生状況。 ・ ろ材や押えが閉塞していないか。 ・ 逆洗時のばっ気攪拌が均一に行われているか。 ・ 汚泥移送量は適正か。
汚泥濃縮貯留槽	<ul style="list-style-type: none"> ・ スカム厚。 ・ 汚泥堆積厚。 ・ 中間水に汚泥の流出が見られないか。 ・ 汚泥排出装置が閉塞していないか。
消毒槽	<ul style="list-style-type: none"> ・ 処理水との接触状況。 ・ 沈殿物の生成状況。 ・ 薬剤の残量と補給。
ブ口ワ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作動状況の確認。 ・ タイマの設定状況。 ・ エアフィルターの洗浄。 ・ Vベルトの張り具合。 ・ 循環オイルの点検・補給。 ・ 点滴ジョイントの点検と清掃。 ・ オイル、エア漏れの点検。

3-2 使用前の点検確認と調整

通常の保守点検を行う前に、使用開始直前に浄化槽の製造、施工、内部作動装置の機能等を点検確認することは、浄化槽の正常な運転のためにも、また保守点検・清掃作業に支障を生じさせないためにも極めて重要です。

1) 浄化槽の設置状況の確認

(1) 実施設と届出書類の照合

- ① 設置された浄化槽と届出された浄化槽が同一であることを申請書類等で照合確認してください。

(2) 浄化槽周辺状況の確認

- ① 本体、ブロワ等が設置されている場所を観察し、保守点検及び清掃作業に支障がないかを確認してください。
- ② 浄化槽のマンホール等より雨水の流入のおそれがないかを確認してください。
- ③ 浄化槽上部の利用状況について観察してください。特に上部が駐車場になっている場合は車輛用仕様になっているか設計図書等で確認してください。
- ④ 風呂排水、台所排水が接続されていることを確認してください。また、雨水配管が接続されていないことを確認してください。

(3) 浄化槽内部の確認

- ① マンホール・角蓋を開け、保守点検・清掃作業が容易かつ安全に行えるかを確認してください。
- ② 槽が水平に施工されているか確認し、各槽の水位関係、流入管底、放流管底等が正常かを確認してください。
- ③ 目視により槽内壁、仕切板、各配管、その他の内部設備に破損等がないかを確認してください。
- ④ 配管途中に空気漏れがないか、散気と逆洗の配管接続が逆になっていないか確認してください。
- ⑤ 移送水量(流量調整槽)・汚泥移送量(生物ろ過槽)・し渣移送量(多孔スクリーン槽)を確認してください。

ご注意

- ・ 担体流動槽の担体が完全に旋回するまで時間が掛ります。出来るだけ早期にブロワを運転し、槽内をばっ気して水と馴染ませて下さい。
- ・ 飲食店等、高濃度の排水が流入する現場では、運転開始時の臭気が問題となる場合があります。臭気を出来るだけ早期に収めたい場合はシーディングを行って下さい。

3-3 保守点検のポイント

フジヨシ浄化槽 FCD-I 型は、流量調整担体流動生物ろ過方式を採用しており、通常の接触ばっ気方式と異なる点があります。ここで、保守点検において、接触ばっ気方式と違うポイントを記しますので、特に注意して保守点検を行ってください。

1) 散気・逆洗状況

ブロワのエア口は4系列になっており、攪拌系統、散気系統、移送系統、逆洗系統があります。それぞれのばっ気状態が適正でない（著しい偏り、風量不足）場合には、散気用バルブや逆洗用バルブによる調整または水洗浄をしてください。
バルブ設定および水洗浄方法に関しては p10~11 を参照してください。

2) 逆洗タイマ、汚泥・し渣移送水量の設定

電磁弁は逆洗系統と移送系統に設置されております。汚泥移送量・し渣移送量、逆洗の調整は、各該当の電磁弁を ON にして行って下さい。
逆洗や汚泥・し渣移送はタイマで制御されています。
※タイマ、汚泥移送量等の設定に関しては、p13~15 を参照してください。

3) 移流口等の担体流出防止用ネット・ろ材押え・目皿の洗浄

担体流動槽の移流管、オーバーフロー口（管）、担体の流出・逆流を防止するためのネットや目皿が設置されています。

保守点検時に必ず目詰まり・破損が生じていないか確認し、ブラシ等で部品の破損に注意して洗浄を行ってください。

また、生物ろ過槽にはろ材押えが設置されています。**保守点検時に必ず目詰まり・破損が生じていないか確認し、ブラシ等で部品の破損に注意して洗浄を行ってください。** 洗浄の際には手動で流調ポンプの停止と汚泥移送を行ってください。ろ材押えが水面より上に現れたら汚泥移送を停止し、洗浄して下さい。洗浄作業終了後、**流調ポンプと汚泥移送が自動運転になっていることを必ず確認して下さい。**

目詰まりや破損が生じると溢水や担体・ろ材流出の恐れがあります。

4) スクリーンの洗浄

ばっ気型スクリーン槽に荒目スクリーン、多孔スクリーン槽には多孔スクリーンが設置されています。

保守点検時には必ず目詰まり・破損が生じていないか確認し、ブラシ等で部品の破損に注意して洗浄を行ってください。

目詰まりや破損が生じると溢水の恐れがあります。

3-4 各装置の確認・調整

1) バルブの種類と開度

エア配管は、攪拌用ブロワは攪拌系統（ばっ気型スクリーン槽、流量調整槽）の1系統。
 ばっ気用ブロワは散気系統（担体流動槽、多孔スクリーン槽）・移送系統(汚泥移送エアリフトポンプ、し渣移送エアリフトポンプ)・逆洗系統（逆洗）の3系統に分かれており、通常ばっ気用ブロワからは、散気系統のみエアが供給されています。移送系統、逆洗系統にはタイマ制御によりエアが供給されます。

ご注意 汚泥移送・逆洗時にも散気系統にエアが供給されます。それらの時に担体流動槽のばっ気が停止しないよう各バルブ調整を行ってください。

エア配管中のバルブは表3に示すように全て色分けされており、また各々のバルブにはラベルが貼付されています。

表3 バルブの種類と開度
攪拌用ブロワ

設置場所	ばっ気型スクリーン槽	流量調整槽
種類	攪拌	攪拌
ラベル名称	散気管	散気管
バルブの色	青	青
バルブ開度	全開(100%)	全開(100%)

ばっ気用ブロワ

設置場所	多孔スクリーン槽		担体流動槽	生物ろ過槽		汚泥濃縮貯留槽
種類	ばっ気	し渣移送	散気	逆洗	汚泥移送	攪拌
ラベル名称	散気管	エアリフト	散気管	逆洗管	汚泥移送	散気管
バルブの色	青	灰	青	赤	灰	青
バルブ開度	50%	30%	全開(100%)	全開(100%)	70%	全閉(0%) 清掃時手動調整

※ 上記は出荷時設定です。

移送水量等が適正になるように現地にて調整して下さい。

2) 散気・逆洗管の洗浄方法

散気・逆洗管の洗浄は水道水、バルブ操作により行います。

<水道水による洗浄の手順（散気管）>

- (1) ブロワのブレーカーを切り、運転を停止する。
- (2) 散気装置入口のユニオンをはずして、ビニールホースなどにて給水栓の蛇口と継ぐ。
- (3) 給水栓を開けて散気管に水道水を流す。
- (4) 給水栓を閉じてから、配管を作業前の状態に戻す。ブロワのブレーカーを入れ、運転を再開する。
- (5) 各バルブの設定を行う。

<バルブ操作による洗浄の手順>

・散気管

- (1) 散気状態であることを確認する。
- (2) 多孔スクリーン槽の散気バルブを全閉する。
- (3) 散気用配管の一部を絞り、1系列当りの空気量を増やし、空気洗浄を行う。
- (4) 各バルブの設定を元に戻す。

・逆洗管

- (1) ブロワタイマを操作し手動逆洗を行う。
- (2) 汚泥移送バルブを全閉にする。
- (3) 逆洗用配管を1系列ごとに空気を供給し、空気洗浄を行う。
- (4) 各バルブの設定を行う。
- (5) ブロワタイマを操作し手動逆洗を解除する。

各操作終了後は、バルブの設定を元に戻す。

3) フロートの調整

流量調整槽・放流ポンプ槽(※)には、①L.W.L用、②H.W.L用、③A.W.L用の3つのフロートが設置してあります。この3つが適正で無いと、浄化槽が正常に機能しなくなります。フロートは各槽の開口に設置してあるアングルに結束バンド等で取付けて下さい。

(※)自動交互ポンプの場合調整できるのは警報フロートのみとなります。

① 流量調整槽

- フロートスイッチの中間ウェイトからの長さ設定と可動範囲(目安)

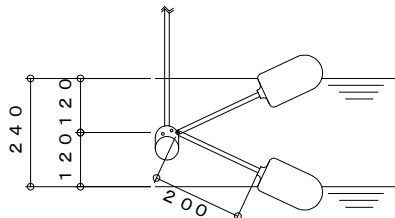


図1 フロートスイッチ概要

中間ウェイトから本体までの長さを 200(mm) に設定して下さい。

- 設定位置

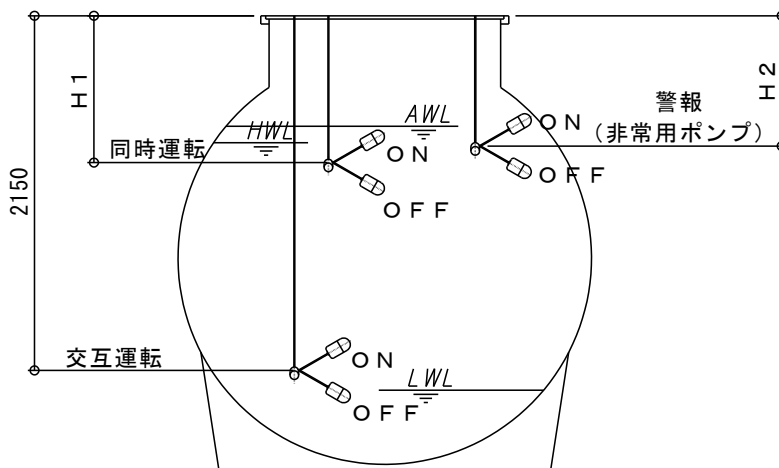


図2 フロート設定位置

表4 フロートスイッチ設定位置詳細（流量調整槽）

フロート種類	役割(ON/OFF)	設置位置	
L.W.L.用	ポンプ起動/停止(交互運転)	2150+かさ上げ[mm]	
H.W.L.用	予備ポンプ起動/停止(同時運転)	流入管底(※)	H 1 : 位置[mm]
		GL-600	890+かさ上げ
		GL-610~700	990+かさ上げ
		GL-710~800	1090+かさ上げ
		GL-810~900	1190+かさ上げ
		GL-910~1000	1290+かさ上げ
		GL-1010~1100	1390+かさ上げ
		GL-1110~1200	1490+かさ上げ
GL-1210~1300	1590+かさ上げ		
A.W.L.用	非常ポンプ起動/停止(警報)	H 2 : H 1 - 100[mm]	

※ 流入管底はかさ上げを含まない寸法

② 放流ポンプ槽

○ フロートスイッチの中間ウェイトからの長さ設定と可動範囲(目安)

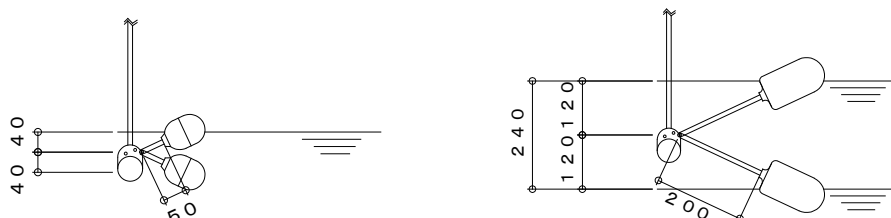
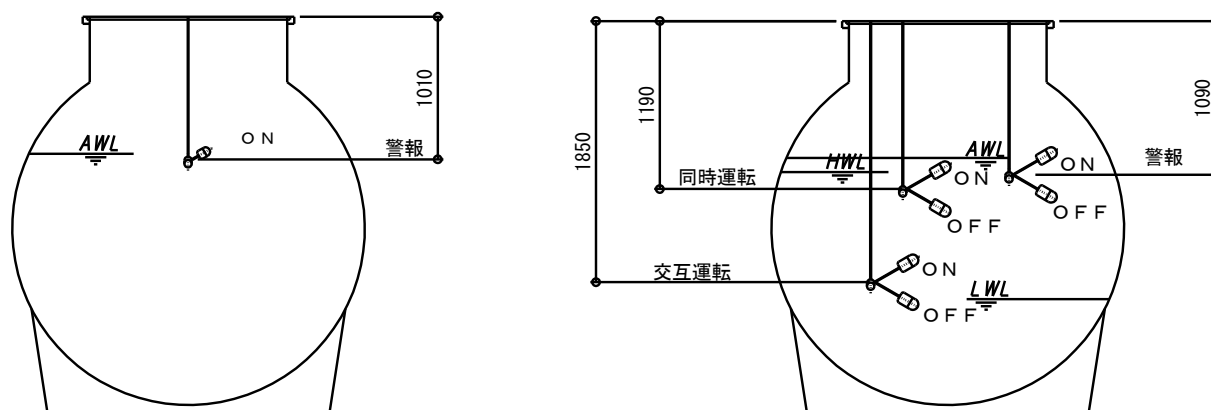


図3 フロートスイッチ概要 (左: ポンプ自動交互 (警報のみ), 右: ポンプ非自動)

中間ウェイトから本体までの長さを警報用: **50(mm)**, 制御用: **200(mm)**に設定して下さい。



ポンプ自動交互 (警報のみ)

ポンプ非自動

図4 フロートスイッチ設定位置 (図はかさ上げ無しの場合)

表5 フロートスイッチ設定位置詳細（放流ポンプ槽）

フロート種類	役割(ON/OFF)	設置位置[mm]	
		ポンプ自動交互	ポンプ非自動
L.W.L.用	ポンプ起動/停止(交互運転)	(ポンプに付帯)	1850+かさ上げ
H.W.L.用	予備ポンプ起動/停止(2台同時運転)	(ポンプに付帯)	1190+かさ上げ
A.W.L.用	警報	1010+かさ上げ	1090+かさ上げ

4) 移送水量の設定（流量調整槽）

流量調整槽は計量調整装置を介し、常時多孔スクリーン槽へ移送しており、移送水量は日平均流入水量（Q）の1.8倍（1.8Q）を基本としています。

各人槽別の移送水量の設定値は、次式により算出されます。表6を参考に、計量調整装置のリターンゲートを操作し適正に調整して下さい。

$$\text{移送水量 (L/分)} : \text{日平均汚水量 (Q)} \div 1,440 \times 1.8 \times 1,000$$

表6 日平均汚水量と設定移送水量

日平均汚水量(m ³ /日)	2.55	10.2	20	30	40	50	60	70	80	90	100
移送水量(L/分)	3.2	13	25	38	50	63	75	88	100	113	125

5) 汚泥移送量の設定（生物ろ過槽）

生物ろ過槽内にある移送装置（汚泥移送エアリフトポンプ）により、底部汚泥を定期的に汚泥濃縮貯留槽へ移送させています。

移送量は、生物ろ過槽の水位がろ材押えまで低下する時間を5(分)とし、それが目安になります。具体的な水量は日平均流入水量（Q）の4倍（4.0Q）を基本としています。移送水量の測定は汚泥濃縮貯留槽から流量調整槽へ移流する中間水で行って下さい。

日平均汚水量毎の汚泥移送量の設定量は次式より算出されます。

表7を参考に適正量となるようエアバルブを調整して下さい。

$$\text{汚泥移送量 (L/分)} : \text{日平均汚水量 (Q)} \div 1,440 \times 4.0 \times 1,000$$

表7 日平均汚水量と設定汚泥移送量

日平均汚水量(m ³ /日)	2.55	10.2	20	30	40	50	60	70	80	90	100
汚泥移送量(L/分)	7.1	28	56	84	111	139	167	195	223	250	278

6) し渣移送量の設定（多孔スクリーン槽）

多孔スクリーン槽内に設置されているエアリフトポンプにより、汚泥濃縮貯留槽へ移送されます。移送のタイミングは逆洗と同時にされます。

調整する際は、逆洗管のバルブを全閉(0%)、多孔スクリーン槽の散気バルブを全開(100%)にしてから、手動で逆洗用電磁弁を起動して下さい。調整後はバルブを元に戻して下さい。

移送水量の測定は汚泥濃縮貯留槽から流量調整槽へ移流する中間水で行って下さい。

表8を参考に調整して下さい。

表8 し渣移送量

日平均汚水量(m ³ /日)	25 以下	50 以下	100 以下
し渣移送量(L/分)	10	20	40

※ 実際の負荷状況に合わせて調整して下さい。

7) 逆洗運転

逆洗は流入が無い時間帯（主に深夜）の3時間に逆洗と汚泥移送を交互に繰り返します。逆洗のタイムチャートは図5に示す通りになります。

<順序動作>

- ① 最初に汚泥移送を10分間行い水位をろ材押えの以下まで下げます。
- ② その後逆洗を10分間行います。
- ③ 逆洗終了後、5分間水位を戻します。このとき、戻る水位はろ材押えと同程度とする。
- ④ ①～③を繰り返します。尚、汚泥移送と逆洗中は流量調整槽からの移送は停止します。

(H.W.L.になると逆洗を中断し満水を防ぐ為にポンプが起動します)

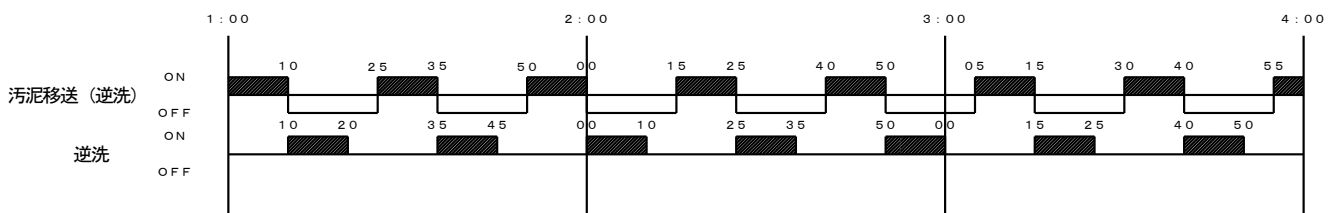


図5 逆洗工程タイムチャート(標準設定)

8) 各タイマの解説

運転制御に使用するタイマの種類は、①ブロウ交互運[24Hタイマ]、②切替(通常/逆洗)[24Hタイマ]、③汚泥移送(通常)[ツインタイマ]、④沈殿(通常)[ソリッドタイマ]、⑤汚泥移送(逆洗)[ツインタイマ]、⑥逆洗[ソリッドタイマ]の6種類になります。

各タイマの標準設定、役割、動作を図6、表9に示します。

ご注意

機器の制御はタイマで行っています。
タイマが故障すると浄化槽が正常に機能しなくなります
タイマが故障した場合、速やかに修理・交換して下さい。

表9 タイマ解説

ラベル名 (種類)	標準設定	役割	解説
ブロワ交互運転 (24H タイマ)	0:00~12:00 「ON」	ブロワの交互運転用	12時間おきにブロワを交互に動作させます。(ブロワの故障予防) 通常設定を変更する必要はありません。
切替 (通常/逆洗) (24H タイマ)	1:00~4:00 「ON」	通常運転と逆洗運転の切替をします	「ON」の間に逆洗運転が行われます。
汚泥移送 (通常) (ツインタイマ)	5分 「ON」 175分 「OFF」	通常運転での汚泥移送を行います	「ON」の間に汚泥移送が行われます。 「OFF」の時間と合わせて3時間おきとなっています。
沈殿 (通常) (ソリッドタイマ)	30分 「ON」 (※Aモード)	逆洗運転終了後、流入よる汚泥流出を抑える為に槽内汚泥を沈殿させます	「ON」の間、流調ポンプを停止させ生物ろ過槽内汚泥の沈殿を行います。 但し、流量調整槽の水位がHWLに達した場合ポンプが起動します。 ※ このタイマは 通常運転時 に切り替わった時点から 30分間 起動するタイマです。
汚泥移送 (逆洗) (ツインタイマ)	10分 「ON」 15分 「OFF」	逆洗運転時の汚泥移送を行います	「ON」の間汚泥移送が行われます。 「OFF」の間 10分間逆洗 が行われます。残りの 5分 で水位を回復させますので必ず、 「OFF」時間-「逆洗」時間=5分 となるように設定して下さい。
逆洗 (ソリッドタイマ)	10分 「ON」 (※Eモード)	逆洗運転時に逆洗を行います	「ON」の間生物ろ過槽内をばっ気し、ろ材の逆洗を行います。 逆洗は 汚泥移送(逆洗)タイマ が「OFF」の間に行います。 ※ このタイマは 逆洗運転時 に 汚泥移送(逆洗)タイマ が「OFF」に切り替わった時点から 10分間 起動するタイマです。

※ () 内はソリッドタイマの設定モード。**変更しないで下さい。**

※ **各機器の手動による起動は制御盤のセレクトスイッチで行って下さい。**

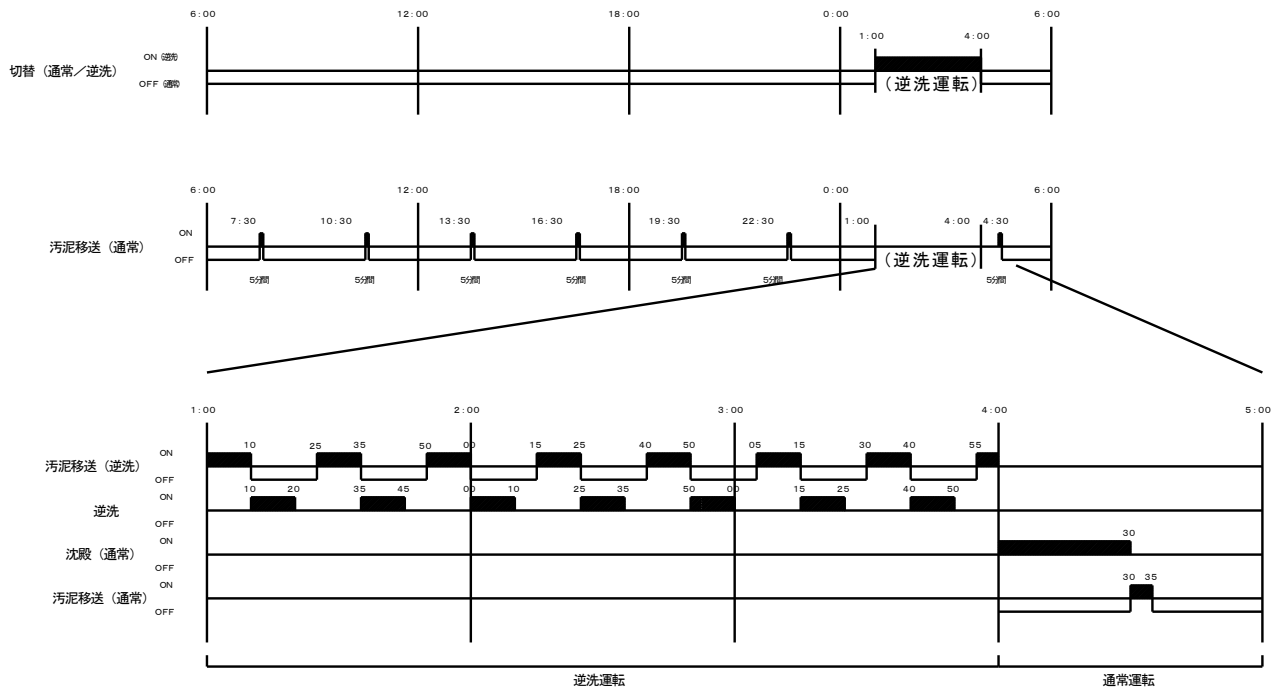


図6 各タイマ動作

3-5 点検方法と保守作業

各槽での点検項目と正常な状態での目安及び異常時の保守作業は以下のとおりです。

1) ばっ気型スクリーン槽

点検項目	点検方法	異常な状態	保守作業
① 荒目スクリーン	目視	・ 異物の付着により閉塞している。	・ ブラシ、ホース等を用いて異物を除去する。
② スカムの状況	目視	・ 多量のスカムがある。	・ 必要な場合は清掃する。
③ 発泡	目視	・ 著しく発泡している。	・ 消泡剤の投入。
④ 汚泥の堆積状況	目視及び透明管の差し込み	・ 底部に汚泥が堆積している。	・ 必要な場合は清掃する。
⑤ ばっ気状況の確認	目視	・ 気泡の発生が不均一である。	・ 散気バルブの調整。 ・ 散気装置、エア配管の点検。(詰り、空気もれがないか) ・ ブロワの点検。 ・ 散気装置の洗浄
⑥ 異物の流入	目視	・ 生理用品や紙おむつなどが存在する。	・ 使用者に異物を流さないように注意する。
⑦ 油脂の流入	目視	・ 油脂が多量に浮いている。	・ 使用者に油脂類を多量に流していないか確認、改善を促す。
⑧ 蚊やハエの発生状況	目視	・ 著しく発生している。	・ プレート式殺虫剤やスプレー式殺虫剤で駆除する。

2) 流量調整槽

点検項目	点検方法	異常な状態	対策
① 発泡	目視	・ 著しい発泡が見られる。	・ 消泡剤の投入。
② スカムの状況	目視	・ 多量のスクラムがある。	・ 必要な場合は清掃する。
③ 槽内の攪拌状況	目視	・ 槽内が均一に攪拌されていない。	・ 散気バルブの調整。 ・ 散気装置、エア配管の点検。 （詰り、空気もれがないか） ・ ブロワの点検。 ・ 散気装置の洗浄。
④ 汚泥の堆積状況	目視及び透明管の差し込み	・ 底部に汚泥の堆積汚泥がある。	・ 必要な場合は清掃する。
⑤ フロートの設置状況	目視	・ フロート位置が適正でない。	・ フロートを適正位置に修正する。 → フロート位置 : p. 11 参照
⑥ ポンプの稼働状況	目視	・ 揚水量が少ない	・ 移送ポンプの点検。 ポンプ内が異物等で閉塞している場合、ポンプの洗浄を行う。
⑦ 計量調整装置	移送水量の測定	・ 計量移送装置が閉塞している。 ・ 移送が適正に行われない ・ 計量調整装置を調整しても設定水量が安定して得られない。	・ 計量移送装置の洗浄。 ・ 計量移送装置の調整。 → 移送水量 : p. 12 参照 ・ 移送ポンプの点検。
⑧ 槽内水位	目視	・ 流量調整槽の水が多孔スクリーン槽へオーバーフローしている。または、非常用ポンプが稼働している。 ・ 槽内水位が 2,000mm 以上、または 450mm 以下である。	・ フロート位置の確認。 ・ ポンプと計量調整装置の移送水量が適正であるか確認を行う。 ・ 流入水量が適正を超えていないか確認する。

3) 多孔スクリーン槽

点検項目	点検方法	異常な状態	保守作業
① 移流管内の堆積物	目視	・ 移流管内に異物が堆積している。	・ 異物を除去、清掃する。
② 攪拌状況	目視	・ スクリーンに沿ってばっ気されていない。 ・ 均等にばっ気されていない。	・ 散気バルブの調整。 ・ 散気装置、エア配管の点検。 （詰り、空気もれ等がないか） ・ ブロワの点検。 ・ 散気装置の洗浄。
③ 発泡	目視	・ 著しい発泡が見られる。	・ 消泡剤の投入。

④ 多孔スクリーン	目視	<ul style="list-style-type: none"> ・異常水位の形跡がある。通常運転時担体流動槽と水位差がある。 ・異物、生物膜の付着によりスクリーンが閉塞している。 ・油脂によりスクリーンが閉塞している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホース、ブラシを使いスクリーンを清掃する。 ・使用者に生ゴミ等を流していないか確認、改善を促す。 ・上流にグリーストラップ及び油脂分離槽が設置されている場合、定期的な清掃を促す。 ・使用者に油脂類を多量に流していないか確認、改善を促す。
⑤ し渣移送量の確認	移送水量の測定 (手動移送)	<ul style="list-style-type: none"> ・し渣が多量に発生している。 ・エアバルブを調整しても、設定水量が得られない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・し渣移送量の調整。 →し渣移送量：p.13参照 ・使用者に生ゴミ等を流していないか確認、改善を促す。 ・上流にグリーストラップ及び油脂分離槽が設置されている場合、定期的な清掃を促す。 ・し渣移送用エアリフトの動作確認（配管中の閉塞がないか）。 ・ブロワの点検。
⑥ 担体・ろ材の混入	目視	<ul style="list-style-type: none"> ・槽内に担体・ろ材が浮上している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・たもあみ等を使いろ材を回収。大量にある場合は、各槽へ戻して下さい。
⑦ スカム、オイルボールの発生	目視	<ul style="list-style-type: none"> ・多量にスカム・オイルボールが発生している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・柄杓等で汚泥濃縮貯留槽へ移す。 ・使用者に油脂類を多量に流していないか確認、改善を促す。

※スクリーンは点検毎に破損に注して両面を清掃して下さい。

4) 担体流動槽

点検項目	点検方法	異常な状態	保守作業
① 散気の状態	目視	<ul style="list-style-type: none"> ・気泡が片側しか上がってこない。 ・気泡が上がってこない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・散気用バルブの調整。 ・散気装置、エア配管の点検。（詰り、空気もれがないか） ・ブロワの点検。 ・散気装置の洗浄。
② 発泡	目視	<ul style="list-style-type: none"> ・著しく発泡している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・消泡剤の投入。 ・シーディング。
③ 水位の上昇	目視	<ul style="list-style-type: none"> ・担体流動槽の水が生物ろ過槽へオーバーフローしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・移流口の担体流出防止ネットを清掃する。 ・生物ろ過担体の閉塞が考えられます。手動で逆洗を行って下さい。
④ 担体の流出	目視	<ul style="list-style-type: none"> ・担体流動槽の担体他槽へ著しく流出している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・たもあみ等を使い担体を回収し担体流動槽内へ戻して下さい。
⑤ DOの測定	DO計	<ul style="list-style-type: none"> ・1.0mg/L未満 	<ul style="list-style-type: none"> ・散気用バルブの調整。 ・散気装置、エア配管の点検。（詰り、空気もれがないか） ・ブロワの点検。 ・散気装置の洗浄。 ・タイマの設定確認。

5) 生物ろ過槽

点検項目	点検方法	異常な状態	保守作業
① 逆洗の状況	目視 (手動逆洗)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気泡が部分的にしか上がってこない。 ・ 気泡が上がってこない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 逆洗用バルブの調整。 ・ 送気管、逆洗装置の点検。 (途中に空気もれがないか) ・ ブロワの点検。 ・ 逆洗装置の洗浄。
② 汚泥移送量の確認	移送水量の測定 (手動移送)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移送が適正に行われない。 ・ エアバルブを調整しても設定水量が得られない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移送用バルブの調整。 → 汚泥移送量：p. 13 参照 ・ 送気管の点検。 (途中に空気もれがないか) ・ ブロワの点検。 ・ 汚泥移送装置の洗浄。
③ 槽内水の状況	目視	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多量のSSがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手動逆洗を行う。
④ 水位の上昇	目視	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消毒槽へオーバーフローしている。 ・ 移流口の閉塞。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移流口の洗浄。
⑤ スカムの浮上	目視	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担体押さえ上部に著しいスカムの発生がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スカムをひしゃくですくい汚泥濃縮貯留槽へ移送する。
⑥ ろ材押えの閉塞	目視	<ul style="list-style-type: none"> ・ ろ材押えが汚泥、スカムにより閉塞している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブラシ等で押さえを洗浄する。 ・ スカムをひしゃくですくい汚泥濃縮貯留槽へ移送する。 ・ 手動逆洗を行う。
⑧ 透視度の測定 (流出水)	透視度計	<ul style="list-style-type: none"> ・ 透視度が概ね 20 度未満。 	<p>【考えられる原因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生物処理が正常に機能していない。 ⇒ 担体流動槽の保守作業を行う。 ・ 汚泥の堆積 ⇒ タイマおよび汚泥移送エアリフトポンプの動作を確認する。 手動操作で堆積汚泥を汚泥濃縮貯留槽へ移送する。
⑨ pHの測定 (流出水)	pH計	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5.8～8.6 の範囲外 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 使用者に特殊な薬品類を多量に流していないか確認し、流している場合には改善を促す。

6) 汚泥濃縮貯留槽

点検項目	点検方法	異常な状態	保守作業
① スカムの状況	目視及び測定用具の差込	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多量のスカムがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多孔スクリーン槽、移流管へ越流する恐れのある場合はスカムを除去、清掃する。
② 堆積汚泥の状況	目視及び測定用具の差込	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水深の半分以上堆積している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 清掃時期。 汚泥の引抜きを行う。
③ 中間水の濁り	目視	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間水に多量の汚泥が流出している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ し渣移送量、汚泥移送量の調整。 → 汚泥移送量：p. 13 参照 → し渣移送量：p. 13 参照 ・ 上記作業で改善されない場合は、汚泥の引抜きを行う。

7) 消毒槽

点検項目	点検方法	異常な状態	保守作業						
① 薬剤筒の取付状態	目視	・ 薬剤筒が傾いている。	・ 正常な位置に取り付け、処理水と消毒剤が効率よく接触できるようにする。						
② 消毒剤の有無	目視	・ 消毒剤の減るのが早い。 ・ 消毒剤が減っていない。	・ 消毒槽内の残留塩素濃度から判断し、直接放流水が消毒剤に当たらないようにする。 ・ 回転スリットを調節する。						
③ 槽内沈殿物の有無	目視	・ 沈殿物があり、かつ放流水に濁りが認められる。	・ 清掃する。						
<p>● 消毒剤は残量の多少に関わらず、必ず補充してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消毒剤補充時に、誤って槽内に落とさないように慎重に行ってください。 ・ 消毒剤が消毒槽以外の槽で溶解すると、浄化槽内の微生物が死滅して処理性能が悪化します。 ・ 使用する薬剤は以下の仕様のもを使用して下さい。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>有効塩素濃度</th> <th>外形</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>イソシアヌール酸系</td> <td>99%以上</td> <td>φ30mm×24mm以下</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 無機系塩素剤及びアルカリ物質との混合使用は爆発の危険がありますので絶対しないで下さい。 ・ 上記以外の仕様であると消毒が適正にされなかったり、貯留日数が不足したりします。 				種類	有効塩素濃度	外形	イソシアヌール酸系	99%以上	φ30mm×24mm以下
種類	有効塩素濃度	外形							
イソシアヌール酸系	99%以上	φ30mm×24mm以下							

8) ブロワ・蓋類

点検項目	異常な状態	保守作業
① 運転状況	・ 運転が停止している。	・ 電源の確認をする。 ・ オイルの確認、補充。 ・ Vベルトの確認、張り直し。 ※ 詳細はブロワの「取扱説明書」を参照。
② 配管接続部	・ 空気が漏れている。	・ 修理する。
③ 音、振動	・ 異常な音、振動がある。	・ ブロワとコンクリート基礎間の隙間が原因であれば、確実に接地するように改善。 ・ オイルの確認、補充。 ・ Vベルトの確認、張り直し。
④ エアフィルター	・ 汚れの付着や目詰まりしている。	・ 清掃または交換。 ・ 定期的な交換を推奨。
⑤ タイマ	・ 現在時刻、設定内容が合っていない。	・ 現在時刻と設定内容をセットする。
⑥ マンホール・角蓋	・ ひび、割れが発生している。 ・ 塗装が剥がれている。 ・ 腐蝕している ・ 蓋が閉まらない。	・ 直ちに交換して下さい。 ・ 塗装し直して下さい。塗装し直す事で蓋が長持ちします。 ・ 腐蝕が激しい場合は直ちに交換して下さい。腐蝕の規模が小さい場合、腐蝕部を落とし塗装して下さい。 ・ 枠やボルト・ナットに砂等が付着している場合、除去して下さい。ボルト・ナットが破損している場合は交換して下さい。
<p>● オイル・グリスは、ブロワの取扱説明書に従い、補充・交換を行ってください。</p> <p>● エアフィルターは定期的に清掃または交換してください。</p> <p>● Vベルトは1年に1回交換してください。</p> <p>● 蓋類異常の放置は転落・傷害等の事故に繋がる可能性が高くなる為、速やかに対処して下さい。</p> <p>● 蓋類は定期的に塗装することで事故の危険性を抑えることができます。また、交換頻度も少なくなります。</p>		

3-6 異常時の対策

1) 発泡対策

発泡現象は微生物量が少ない使用開始時、散気風量が多い場合、気温と水温の差が大きい場合、多量の洗剤が流入した場合等に起こることがあります。特に使用開始当初に起こることが多いのですが、ほとんどの場合、ある程度の時間が経過すれば発泡は解消されます。

しかし早期に対策を講じなければならない場合は、消泡剤（別売）を使用し消泡を行ってください。さらにシーディングを行い、担体流動槽等に微生物を供給し生物処理を円滑に行わせることも発泡の対策になります。また、洗剤が多量に流入している場合は上記の作業のほか、浄化槽管理者（使用者）に洗剤の使用量を適正にさせていただくようお願いしてください。

2) 高負荷対策

○ 汚濁負荷が高く水量負荷が低い場合

流量調整槽からの移送水量を少なくして下さい。この操作を行う時は、流量調整槽が満水やH.W.L.（ポンプ2台起動）が頻繁に起こらないように注意して下さい。

○ 汚濁負荷のみ高い場合（水量負荷は計画量前後）

通常運転時の担体流動槽の負荷を減らし処理の安定を図る。また発生汚泥量が増えるので1日の汚泥移送量を増やして対応します。調整は表10の順番で対処して下さい。

また、汚泥移送量を増やす事で汚泥濃縮貯留槽が計画より早期に貯留容量をオーバーする為、汚泥濃縮貯留槽の清掃頻度を増やして下さい。

表10 高負荷時のタイマ変更

タイマ名	標準設定	対策1	対策2	対策3
切替（通常／逆洗） （24Hタイマ）	1:00～4:00「ON」	→		→
汚泥移送（通常） （ツインタイマ）	5分「ON」 175分「OFF」	5分「ON」 235分「OFF」	5分「ON」 295分「OFF」	→
沈殿（通常） （ソリッドタイマ）	30分「ON」	→	60分「ON」	→
汚泥移送（逆洗） （ツインタイマ）	10分「ON」 15分「OFF」	→	5分「ON」 15分「OFF」	5分「ON」 10分「OFF」
逆洗 （ソリッドタイマ）	10分「ON」	→	→	5分「ON」

4. 清掃について

4-1 清掃時期の目安

○ ばっ気型スクリーン槽

ばっ気型スクリーン槽の清掃は、固形物等の流入状態に合わせて行って下さい。

○ 汚泥濃縮貯留槽

汚泥濃縮貯留槽の貯留容量は濃縮汚泥の 14日間分(設計値) です。

保守点検の際、以下のような状態が確認された場合直ちに清掃を行って下さい。

<清掃目安>

- ・ 微生物に対して毒性を有する物質の流入が認められ、生物処理が困難と認められるとき。
- ・ 堆積汚泥が水深の半分以上である。また、スカムが著しく発生している。
- ・ し渣移送、汚泥移送の際の 中間水に多量の汚泥が含まれている。
- ・ 担体流動槽、生物ろ過槽内に多量の SS が発生し、汚泥の移送作業を行っても減少しないとき。

4-2 単位装置作業内容・手順

1) ばっ気型スクリーン槽

ばっ気型スクリーン槽内でスカム・汚泥堆積が見られた場合。必要に応じてサクシオンホースを槽底部に挿入し、汚泥を 全量 引抜いてください。

2) 汚泥濃縮貯留槽

- ① 流入管、流出管の付着物などを除去して汚泥濃縮貯留槽へ移してください。
- ② 多孔スクリーン槽・生物ろ過槽より手動でし渣・汚泥移送を行って下さい。
- ③ スカムを破砕する場合、設置されている散気バルブを全開にして破砕して下さい。
- ④ サクシオンホースを槽底部に挿入し、汚泥を 全量 引抜いてください。

注意

引抜き作業終了後必ず、散気バルブの全閉を確認して下さい。この作業を怠ると、汚泥濃縮貯留槽内が常時ばっ気され浄化槽全体の機能が正常に働かなくなりますので注意して下さい。

3) 多孔スクリーン槽

槽内にスカム、オイルボールが発生した場合、それらを柄杓等で汚泥濃縮貯留槽へ移して下さい。

多量のし渣が発生した場合は 散気バルブを全閉にして沈殿させてからサクシオンホースを槽底部へ挿入し適量 を引抜いて下さい。その際、槽内設備(スクリーン、散気管、エアリフト)を破損しないよう注意して下さい。

注意

尚、本槽は担体流動槽とスクリーンを隔てて連通しているため、全量引抜きを行うと担体流動槽内水を多量に引抜く事になるため、必ず多孔スクリーン槽内のし渣を沈殿させ、それを適量引抜いて下さい。

4) 担体流動槽

汚泥引き抜きは通常必要ありません。

万一、汚泥の引き抜きが必要な場合は、槽中央等から直接引抜かないでください。汚泥とともに担体が抜かれてしまいます。引き抜きの際は、ばっ気を停止し、しばらく時間を置き汚泥を沈降させてください。ホースの先に網等（目幅が17mm以下）を付け、槽底部から担体を引き込まないように注意しながら適性量汚泥を引き抜いてください。

5) 生物ろ過槽

汚泥の引き抜きは通常必要ありません。

汚泥の引き抜きが必要な場合は、手動にて汚泥移送エアリフトで汚泥濃縮貯留槽へ移送して下さい。その際、汚泥濃縮貯留槽からの中間水から汚泥が流出しない程度で行って下さい。

6) 後作業

清掃が終わりましたら、槽内に規定水位（最も低い水準目安線）まで水張りして下さい。

水張り後、ブロワのブレーカーを入にしてブロワの運転を開始してください。

5. アフターサービスについて

5-1 保証期間と保証の範囲

1) アフターサービス

ご使用中に万一、異常が発生した場合は、ご契約の維持管理店または、弊社営業所へご連絡下さい。

弊社営業所の連絡先は、一覧表（背表紙）を参照下さい。

2) 保証について

保証期間は使用開始日から起算して、本体が3年、駆動部が1年です。保証書の記載内容通り故障について修理いたしますので、詳しくは保証書をご覧ください。また、保証書に「お客様名、お取扱店名、据付日」を記入し、大切に保管してください。

保証期間経過後の修理についても、お気軽にご相談下さい。

保証期間内に取扱説明書の注意書きに従って、正常な使用状態にて故障した場合には、保証書記載内容にもとづき無償修理を行うことをお約束するものです。ただし、保証は「機能」を保証し、「性能」を保証するものではありません。

保証対象品

① 槽本体：本体の外殻、仕切板（担体含む）

※ FRP製の槽本体の耐用年数は30年程度となります。

浄化槽以外に転用する場合は、保証の対象外となります。

② 駆動部（ブロウ・ポンプ・制御盤の装置設備類を含む）

③ その他部品（開口部蓋・枠および、配管部材・嵩上げ材・ろ材等）

※ 開口部の蓋等は使用上に発生した、外観上の傷・錆等は保証致しません。

あくまでも、蓋の機能（耐荷重強度）について保証するものです。

※ 消耗品（ベルト・薬剤・パッキン類・油脂類・ダイヤフラム・弁・消毒剤及び電池等）は対象外となります。

3) 部品の保有年数

部品の最低保有年数は5年です。5年以上過ぎますと部品の供給ができなくなり、部品の一式交換が必要となる場合がありますのでご了承願います。

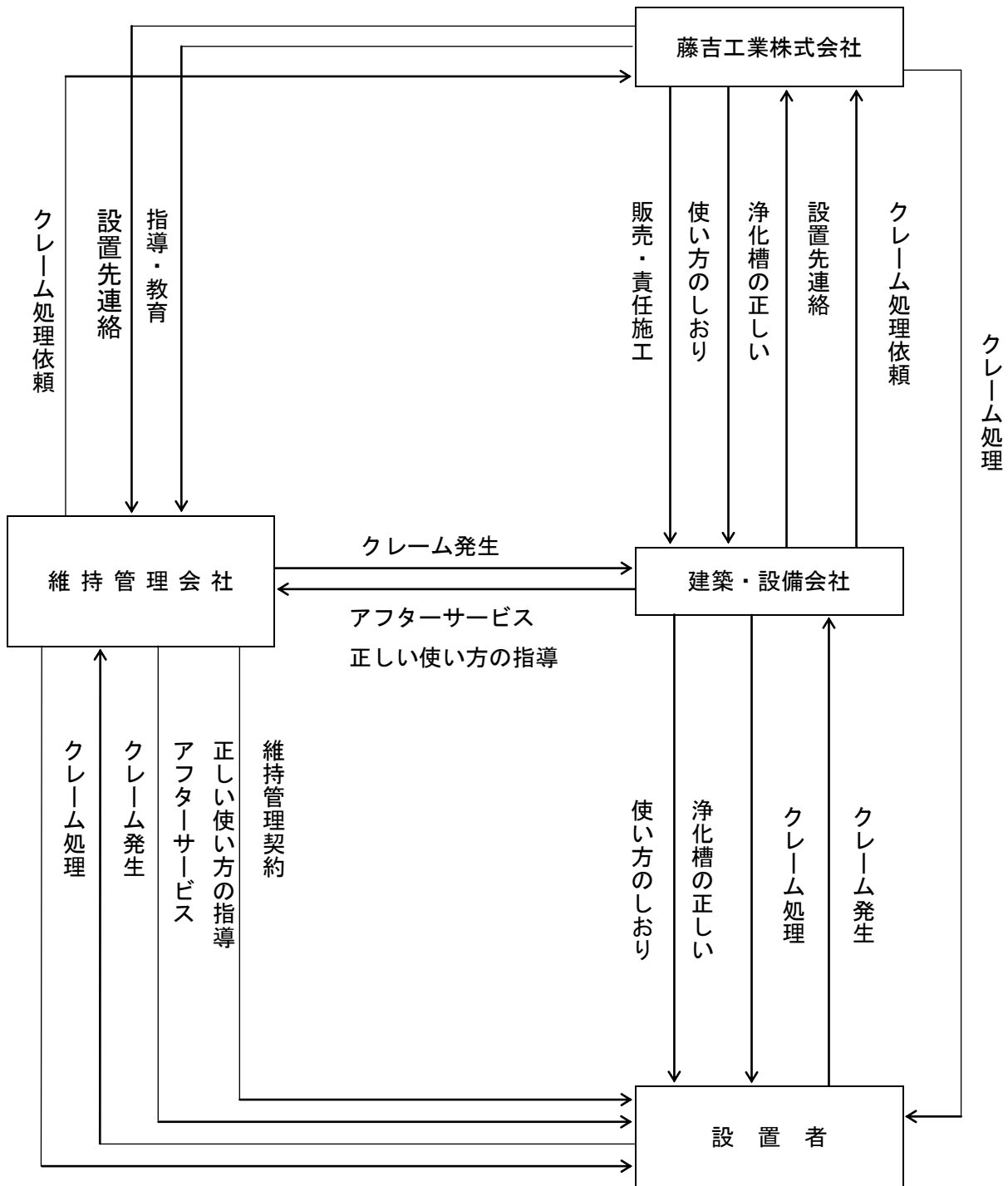
詳しくは維持管理店にご相談下さい。

4) 浄化槽の取扱説明書等を紛失・破損された場合には、弊社にご連絡下さい。直ちに送付致します。

5) その他不明な点は、弊社までお問い合わせ下さい。

※ 浄化槽は「浄化槽法」により、お客様は維持管理（保守点検・清掃・検査）を義務付けられています。これらの費用はお客様のご負担となります。

5-2 維持管理体制



使用開始直前保守点検チェックリスト

作成		氏名	
保守点検日時	平成 年 月 日 時～	天気・気温	/ °C
施設又は管理者	(名称・氏名)	(住所)	TEL
設置年月日	平成 年 月 日	使用開始年月日	平成 年 月 日
処理対象人員	人	実使用人員	人
計画汚水量	m ³ /日	実流入汚水量	m ³ /日
処理方式	流量調整担体流動生物ろ過方式	処理水質	BOD20mg/L、COD30mg/L、SS20mg/L 以下
浄化槽製造業者	藤吉工業株式会社	型式	FCD-I (人槽) 型
施工業者		住所	TEL
保守点検業者		住所	TEL

チェック項目	細目	チェック
建築物の用途の確認	・ 建築物の用途に変更がないか	
	・ 浄化槽の容量(人槽)、構造は適切か	
	・ 建築物の用途が多量の油脂類を排出する場合、油脂類を排除する装置が設けられているか	
浄化槽周辺の状況の確認	・ 日常の保守点検、清掃作業が支障なく行えるか	
	・ 流入、放流柵及び本槽マンホールから雨水の流入の恐れはないか	
	・ 破損、変形、漏水等はないか	
浄化槽内の状況の確認	・ マンホールを開け、嵩上げ高さや槽内の水面と地表面との距離を確認する	
	・ 水準目安線、流入管底、流出管底等各槽内の水位の関係を調べ、槽の水平、高さが正常に保持されているか	
	・ 槽内の観察、装置の操作、試料の採取、薬剤の補充等に支障がないか	
	・ 槽内に土砂等が堆積していないか	
機器・制御盤の作動状況の確認	・ ブロワ・ポンプ及び配管等に異常な振動、騒音、及び発熱がないか	
	・ ブロワ・ポンプの吐出口は適切な配管に接続され、吐出量は、適正か	
	・ 現在時刻、逆洗入時刻、逆洗運転時間は合っているか	
散気状況の確認	・ 気泡はほぼ均等に吹き上げられているか	
	・ 散気用バルブを操作してどの程度の調整が可能か確認する	
	・ 上部配管の継手等に石鹸水を吹き掛ける等により、空気漏れの有無を確認する	
移送装置の機能の確認	・ 定量移送装置、移送管等にゴミ、土砂、こぼしモルタル、木クズ等が付着又は堆積していないか	
	・ 計量調整装置、し渣・汚泥移送用エアリフトポンプの移送水量は適切か(各移送水量を測定する)。	
	・ 移送管の流出部の管底と移送先の水面との落差を測定し、逆流しないことを確認する	
逆浄の確認	・ 逆洗を手動にて稼働させ、気泡はほぼ均等に吹き上げられているか	
流入・流出管渠の水の流れ方の状況確認	・ 生活排水以外の特殊な排水及び雨水等が流入していないか	
	・ 施工完了後、管渠内の清掃が行われているか(ゴミ、こぼしモルタル、木クズ、ビニール袋等はないか)	
	・ 建物内へ臭気が逆流し難いようになっているか	
	・ 流入管渠の柵は、インパートが切つてあるか	
	・ 放流落差を確認する	
	・ 最も遠い点検口から水を流し、管渠内の流れ方を確認する	

	〔流入・流出管渠の途中にポンプ槽が設けられている場合〕 バルブの管理性及びポンプ能力の妥当性	
臭気対策の 確認	〔臭突が設けられている場合〕 その施工状況、臭突の開口部の位置を確認する	
	〔臭突が設けられていない場合〕 散気後の排出空気の流れ方向を確認する	
浄化槽上部の 利用状況の 確認	・ 処理槽の上部が保守点検、清掃に支障がないよう開放されているかどうか	
	〔駐車場の場合〕 処理槽が車輛荷重を受けない施工仕様で、適性に工事が行われているかどうか	
	〔上屋付きの場合〕 上部構造物の荷重が処理槽に懸らず、また処理槽が車輛を含めて上部荷重を受けない施工方法で、適正に工事が行われているかどうか確認する。上屋内の臭気対策は適切か。	
	〔処理槽をピット内に設置している場合〕ピット内の作業空間の広さ、雨水や土砂の流入の可能性、ピット内の排水口の有 無等管理上の支障の有無を確認する。	
種汚泥の検討	・ 生物処理機能の馴致期間の短縮化を図るため、種汚泥を添加するかどうかについて検討する。	
運 転 開 始	・ 浄化槽のピーク水量を流入させ、各単位装置内及び単位装置間の水の流れを確認する	
管理者への説明	・ 正しい使い方（使用の準則）について説明する	
	・ 法的義務について説明する	

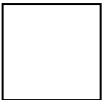
所 見	
-----	--

このチェックリストは、3年間の保有が必要です。

大型浄化槽保守点検記録票

(3年間保存)

検印



保守点検日時	年 月 日 : ~ :				巡回用途	定期・契約・要請・その他				
前回保守点検日	年 月 日	前回清掃日	年 月 日	法定検査実施日	年 月 日					
施設名称 (使用者名等)	名称:	TEL:			自社番号					
	住所:				行政番号					
浄化槽管理者 (設置者)	名称:	TEL:			地図番号					
	住所:				建築用途					
保守点検業者	名称:	TEL:			登録番号					
	住所:				管理士番号					
					管理士名	Ⓜ				
メーカー名	藤吉工業株式会社	型式	FCD-1-()型	処理方式	流量調整担体流動生物ろ過方式					
処理対象人員	人	流入(原水)ポンプ槽	有・無	放流ポンプ槽	有・無	積算流量計(量水器)	有・無			
容量	m ³	天候・気温	天候()・気温()℃							
単位装置	水温(°C)	pH	DO(mg/L)	透視度(cm)	NH ₄ -N(mg/L)	NO ₂ -N(mg/L)	NO ₃ -N(mg/L)	残留塩素(mg/L)		
流量調整槽	-	-	-	-	-	-	-	-		
多孔スクリーン槽	-	-	-	-	-	-	-	-		
担体流動槽	-	-	-	-	-	-	-	-		
生物ろ過槽	-	-	-	-	-	-	-	-		
消毒槽	-	-	-	-	-	-	-	-		
臭気: 有・無、(種類: 下水臭・屎尿臭・腐敗臭・カビ臭・その他())、(発生源:())・不明										
点検項目または作業状況		該当に○印若しくは記入			点検項目または作業状況		該当に○印若しくは記入			
使用状況	実使用人員	人			スクリーン ばっ気型	スクリーンの閉塞	有・無、(対策: 済・未)			
	積算流量読み値	m ³				発泡	有・無、(対策: 済・未)			
	日平均汚水量	m ³ /d				ばっ気状況(正常:均一)	正・異、(対策: 済・未)			
	流入の状況					汚泥の堆積	有・無、(厚 mm)			
本体関係	蓋類の破損	有・無、(対策: 済・未)			流量調整槽	発泡	有・無、(対策: 済・未)			
	スラブの変形・破損等	有・無、(対策: 済・未)				ばっ気状況(正常:均一)	正・異、(対策: 済・未)			
	躯体・仕切板の変形・破損	有・無、(対策: 済・未)				汚泥の堆積	有・無、(厚 mm)			
	荷重(槽上部)の状	有・無、(対策: 済・未)				フロートの設置状況	正・異、(対策: 済・未)			
	躯体の浮上・沈下の状況	有・無、(対策: 済・未)				計量調整装置の閉塞	有・無、(対策: 済・未)			
	漏水の状況	有・無、(対策: 済・未)				移送水量(正常:1.8Q)	正・異、(対策: 済・未)			
	躯体の水平の状況	有・無、(対策: 済・未)				移送管内の堆積物	有・無、(対策: 済・未)			
本体への雨水管接続	有・無、(対策: 済・未)			多孔スクリーン槽	発泡	有・無、(対策: 済・未)				
管渠	閉塞	有・無、(対策: 済・未)			スクリーンの閉塞	流入側	有・無、(対策: 済・未)			
	漏水	有・無、(対策: 済・未)				放流側	有・無、(対策: 済・未)			
	滞水	有・無、(対策: 済・未)			ばっ気状況	正・異、(対策: 済・未)				
	破損	有・無、(対策: 済・未)			担体・ろ材の混入	有・無、(対策: 済・未)				
埋設管	破損・緩み	有・無、(対策: 済・未)			担体流動槽	し渣移送量	正・異、(対策: 済・未)			
	閉塞	有・無、(対策: 済・未)				空気配管の異常	有・無、(対策: 済・未)			
送風機	異常音	有・無、(対策: 済・未)			生物ろ過槽	ばっ気状況(正常:均一)	正・異、(対策: 済・未)			
	過熱	有・無、(対策: 済・未)				担体の著しい摩耗	有・無、(対策: 済・未)			
	振動	有・無、(対策: 済・未)				担体の著しい流出	有・無、(対策: 済・未)			
	フィルタ	適正・清掃・交換				移送管ネットの閉塞	有・無、(対策: 済・未)			
	オイル量	適正・補充・次回補充				スカムの発生	有・無、(対策: 済・未)			
	グリス	適正・補充・次回補充				ろ材 or 押さえの閉塞	有・無、(対策: 済・未)			
異常水位	Vベルト	適正・交換・次回交換			逆洗状況(正常:均一)	正・異、(対策: 済・未)				
	流量調整槽	有・無			汚泥移送量(正常:4.0Q)	正・異、(対策: 済・未)				
	多孔スクリーン槽	有・無			スカムの発生	有・無、(厚 mm)				
	担体流動槽	有・無			汚泥堆積厚(3点以上)	点数() (平均 mm)				
消毒	生物ろ過槽	有・無			中間水の著しい濁り	有・無、(対策: 済・未)				
	消毒剤残量	適正・補充・次回補充			点検	次回保守点検予定 ()月				
	異物の混入	有・無、(対策: 済・未)			清掃	予定 ()月・早急に必要				
スカム・汚泥の堆積		有・無、(対策: 済・未)			交換/補充	品名・数量:				

備考・連絡事項

大型浄化槽清掃記録票

(3年間保存)

検印



清掃実施日	年 月 日 : ~ :									
前回清掃日	年 月 日	巡回用途	定期・契約・要請・その他			自社番号				
行政番号	地図番号					建築用途				
施設名称 (使用者名等)	名称:					TEL:				
	住所:									
浄化槽管理者 (設置者)	名称:					TEL:				
	住所:									
清掃業者	名称:					TEL:				
	住所:									
	担当者:					Ⓜ				
保守点検業者	名称:				清掃汚泥の処分先					
メーカー名	藤吉工業株式会社		型式	FCD-I—()型		処理方式	流量調整型担体流動生物ろ過方式			
処理対象人員	人	実使用人員	人	容量	m ³	計画日平均汚水量	m ³ /d			
中継ポンプ槽・流入(原水)ポンプ槽		有・無		油脂分離槽		有・無		放流ポンプ槽		有・無
槽内に入って清掃作業をおこなう必要性		有・無		酸素濃度	作業前	%		硫化水素濃度	作業前	ppm
清掃箇所	清掃汚泥量	張り水量	調整後		%		調整後		ppm	
汚泥濃縮貯留槽	m ³	%	使用車両	パキューム車		t車	台	t車	台	
ばっ気型スクリーン	m ³	%		汚泥濃縮車		台	その他()		台	
中継ポンプ槽・流入(原水)ポンプ槽	m ³	張り水量(100%)の確認		異常な振動	有・無	異常な騒音	有・無	異常な臭気	有・無	
放流ポンプ槽	m ³		管渠の洗浄方法	有(水道水・高圧洗浄・その他)・無						
洗浄水	m ³	張り水の種類	内部設備の状況	有(変形・破損・漏水)・異常なし						
その他()	m ³	水道水 ・ その他 ()	異物等の混入	有()・無						
合計	m ³									
汚泥濃縮車搬出量	m ³									
特記事項										

お問い合わせ、ご相談は下記へご連絡ください。

藤吉工業株式会社

本社／〒453-0801 名古屋市中村区太閤四丁目2番8号

TEL (052)451-8261 FAX (052)451-2373

【 ホームページ URL :<http://fujiyoshi.co.jp/> 】